

## 審判講習会 参加報告書

平成29年12月8日

報告者 白石 義人 印

この度参加しました、審判講習会について報告します。

なお、この報告書が、審判委員会ホームページ等に掲載されることを了承します。

<b>講習会名 (大会名)</b>	第14回北九州チャンピオンズカップ国際車椅子バスケットボール大会 第19回全日本ブロック選抜車椅子バスケットボール選手権大会
<b>参加者 (報告者)</b>	白石 義人 (所属カテゴリー) クラブ連盟・車椅子連盟
<b>期 日</b>	平成29年11月10日(金) から 平成29年11月12日(日)
<b>会 場</b>	北九州市立総合体育館
<b>参加者</b>	菅野英輔、増竹昇、加藤昌樹、門川浩人、杉山兼芳、小野裕樹、齋藤登、蛭名准、二階堂俊介、斗沢祐香、免田佳子、四方田真菜美、小嶽悠、田中敏弘、今村和成、白石義人、祖父江達也、初瀬真由子、三木大助、林真理子、後藤寛知
<b>報告① A O Z北京 報告伝達</b>	<p>A O Z北京に行かれた二階堂氏より、報告と伝達事項を伝えていただいた。</p> <p>① レポート時のシグナルについて しっかり声を出す、テーブルの近くまで行く必要はない。レポートの際、腕を伸ばし切らない(慌てている様子に見受けられてしまう)</p> <p>② レポートの位置について レポート時にペイントエリア(KEY)に入ることは避ける。通過もしない。自分の後ろにプレイヤーがいることはあってはならない。ファールを取り上げた場所と次の場所へ行く途中で止まってレポートすることがスムーズで効果的である。</p> <p>③ リフティングの候補者について リフティングの候補者は各チーム2、3人のはずである。試合前にクルーで確認すること。両足切断はほぼ無理。4,0か4,5のプレイヤーで、座面がフラット又は前傾、ベルトが膝近くは要注意。</p> <p>④ 3秒ルールの合図について ヴァイオレイションの合図をして、肘を伸ばした手を、下側から前方に1回振り上げる。</p> <p>⑤ ニューリードの入り方について ファストブレイク時などをのぞき、通常の開きのときは、ゆっくり顔をコートに向けながら走り、サイドラインに平行ではなくやや斜めに入り、8秒でセットアップポジションにつく。ボールが逆サイドの時は、場合によっては直接クローズダウンポジションに入る。</p> <p>⑥ リードの動きについて ボールがエリア2にある時はクローズダウンポジションに移動し、スイッチサイドの予備動作に入る。クローズダウンとセットアップポジションの間は何度動いてもよい。必ずスイッチサイドはクローズダウンで止まってから行くこと。スイッチしたらクローズダウンで止まらずセットアップポジションまで移動し体の向きを変える。 エリア5にボールがきたらステップバックしてエンドラインから少し距離を置く。近すぎる</p>

	<p>と目の前が見えない。(サイドチェンジバックステップは2歩まで)</p> <p>⑦ フロント3POメカニクスについて リードがクローズダウンしたらトレイルはセンターに移動する準備を。リードがスイッチしたら同時にセンターポジションに下がる。センターはトレイルがセンターについてから移動を開始する。(センターはフリースロー半円下延長上まで下がる)</p> <p>⑧ センターのポジションについて ポジションが高いとウィークサイドのエンドライン付近の判定ができなくなってしまう。</p> <p>⑨ トレイルの追従について 止まって判定することが大切。ふらふら走りながら追従しないこと。また、バックピック時はフロントコートが把握できる位置取りを。視野の向こうにはフロントコートが入るような位置取りで。場合によってはミドルラインを越えても問題ない。</p> <p>⑩ リードからNEWトレイルに移る際の動きについて ステイしている時間が長いと、ボールキャリアとの距離があいてしまうため、センターライン付近でコンタクトがあった際にセンターレフリーの負担が増えてしまうので、少し早く移動しステイショナルリーで判定ができるように。</p>
<p><b>報告②</b> <b>ゲーム①</b></p>	<p>■ゲーム日時 11月10日(金) ブロック選抜大会1回戦 近畿 対 九州</p> <p>■割当 主審 蛭名 准 氏(北海道・A級審判員) 副審1 斗沢 祐香 氏(東北・B級審判員) 副審2 白石 義人 (報告者)</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス 主審：蛭名さんより、以下の事をクルーの確認事項としてお話いただいた。 ファストコールを思い切りよく、強く表現する事、プライマリー、セカンダリーの意識共有、ニューリードプレイを捉える意識、タフなプレーからラフに変わる瞬間を逃さない、8秒付近はクルーで特に気を付ける、ムービングピック、3秒しっかり判定しよう、スーパーローテーションもあるかもしれない、アウトオブバウンズ助け合う意識、チームファウルの数把握、チームには必ず黒子がいる、黒子に徹するプレイヤーを早く見つけて、プレーをしっかりと捉える事。</p> <p>主任：祖父江さんより 3人ともよかった、この感じで自分達が別の試合を吹いたときにも同じ笛が吹けるかどうか、それぐらいよかったとお言葉をいただいた。</p> <p>蛭名さんより： ラインバイオレーションどこかで共有していればよかった。レポートの後かえる時も下を向かずにコート、プレイヤーをみる癖をつけたほうがよい、最後のプレーはアンスポにしてもよいケースだったとアドバイスをいただいた。</p>

<p><b>報告③</b> <b>ゲーム②</b></p>	<p>■ゲーム 日時 11月11日(土) ブロック選抜大会 7位決定戦 四国 対 中国</p> <p>■割当 主審 蛭名 准 氏(北海道・A級審判員) 副審1 三木 大介 氏(九州・B級審判員) 副審2 白石 義人(報告者)</p> <p>■プレ・ゲーム・カンファレンス 主審: 蛭名さんより以下の事をクルーの確認事項としてお話いただいた。 ローテーション、プライマリーの確認、トップボールポジションでクローズダウンへ、ディレクションは大きく、2メン時の視野の取り方の確認、出来事の共有、バックピック視野にいれる、ベンチへのネクストテク通知はネクストレフェリーが極力する事。</p> <p>主任: 杉山さんより 試合があまり何もないので、自分の動き方とかをチャレンジしてもよかった。24秒バイオレーション気付いたらあまり時間をかけずに宣したほうがよかった、少し遠慮しているように感じる。コートに立てば皆対等なので、遠慮してはいけない。視野がせまくなりがちなので、もっとプレーをワイドに見るように心掛けたほうがいい、ニューリードに入るシーンでTO前のファールを吹いたケースはもっと近づいて思い切り見に行ったほうがよかった、とアドバイスをいただいた。</p>
<p><b>所感</b></p>	<p>自身願の北九州大会に参加させていただき、非常に感謝しています。レベルの高いブロック大会と、同会場で国際大会もあり、贅沢な3日間でした。また、自分の試合だけでなく、このような大会じゃないとみる事もできないようなプレーの数々に興奮と感動を覚えました。他の試合で起こった特殊な事例を2つ報告しておきます。</p> <p>① 持ち点オーバー フリースローの一投目を打つ前にメンバーチェンジをしたチームが、持ち点オーバーになりました。一投目を打った後にチーム、クラスファイヤーが気付き、元に戻してから再開しましたが、厳密にはテクニカル処置をすべきでした。</p> <p>② 同時に別々のレフェリーが別々のファールをコール 全クラ愛媛大会でもありましたが、同時のタイミングで別々に起これば両方のファールが記録されます。 他にも国際大会ならではの選手同士の小競り合いや母国語での暴言など、なかなか経験することのない難しい処置を求められるケースが随所がありました。 自分がそのケースに遭遇した時、どのような対応をすればベストなのか、考えさせられる事ばかりでした。</p> <p>先輩方皆さんにも言われた事ですが、えひめ大会でひとつの区切りとするのではなく、自分にとってステップアップの一步を踏み出したに過ぎないと捉え、これからもより一層頑張っていきたいと思います。</p> <p>最後に、尊敬する同ブロックの祖父江さんより、日頃から試合の前後に自分でチェックしているメモがあると見せていただいたので、ここに掲載します。</p>

聞く力 「謙虚な素直な気持ちで」

分析する力 「試合が始まる前から、試合が始まって2分、3分、控室に帰ってくるまでに」

整理する力 「次の試合までに」

表現する力 「コートの中で」

公平性 「感情を抑える」

4つの力

品格 「オフフィールドでの立ち振る舞い」

技術 「選手からの納得、信頼」

ユーモア 「コミュニケーションやスポーツをたのしむ」

人間性 「一緒に居て楽しい、面白い」

日本人らしさ 「真面目で勤勉」

そしてそのゲームを担当することに、大きな感謝を持ち、競技を楽しむこと、愛することがレフェリングにも、良い形で繋がっていく

モチベーションコントロール

今日この試合で良かったこと、新しい発見

若いレフリーはルールだけにとらわれてしまうことが多い、もちろんルールは大事なことはあるが、ゲーム運営「マネジメント」も大切である

1 担当するチームを理解すること

「キープレイヤーは誰」

2 一緒に担当するクルーとコミュニケーションを取る

3 クルーレフリーと試合中にする約束事、決め事、3～4個くらい

4 自分の課題を主任と共有すること

自分の心配ことを全て無い状態でコートに立つ

祖父江さんほどのベテランの方でも、常に自分の一挙手一投足を確認しながら取り組まれているのかと思うと、頭が下がります。

この1年ほどで、マニュアルが大きく変わり、動き方やプレーの見方の変革に対する対応が迫られることが多くなりましたが、その根底にある本来の目的、よい判定をするという事は、変わることのない大事なことであり、絶対に忘れてはいけないことだと思います。自分が審判をはじめた時から今もこれからも変わることのない、いい審判員になりたいという思いも、自分にとっては絶対に忘れてはいけない大事なことだと思います。今より少しでもいい審判員になれるよう、これからも頑張りたいです。ありがとうございました。